



# 香川県初のオリジナル酒米 「さぬきよいまい」を開発

農学部 応用生物科学科 教授 楠谷 彰人

## 研究シーズの概要

香川県初のオリジナル酒米「さぬきよいまい」。「よいまい」とは讃岐弁で、おいしい酒を飲み、心地よく酔って欲しいとの思いが込められています。この「さぬきよいまい」を原料に使った日本酒の販売が平成19年春から始まりました。

「さぬきよいまい」が誕生するまでには長い研究開発の道程がありました。香川大学が県酒造組合から「香川県独自のおいしい日本酒をつくりたい」と酒米育種の要請を受けたのが平成2年のこと。平成5年からは楠谷研究室が中心となり基礎研究が本格化しました。酒米は、食用の米とは異なり、大粒でその外側部分には、雑味の原因となるたんぱく質や脂肪、ビタミンなどが多く含まれています。おいしいお酒をつくるには、この外側部分を削り、精米歩合を50%前後にも“研ぐ”必要があります。同組合からの要望は、特にタンパク質の含有量が少なく、そして粒の形が大きいものをというものでした。

楠谷研究室では、2年間の基礎研究の結果、県内で酒米として多く生産されている「オオセト」という品種を母親に、そして全国的にも有名な「山田錦」と粒の大きさに特徴がある「松山三井」を父親にすることを決めました。また、新品種の育成は、母親の稲のめしべに父親の稲の花粉を振りかけて新しい品種をつくる従来からのやり方である交配育種法で行うことにしました。昨今話題の遺伝子組み換え技術を使うと開発期間が短縮されますが、食用面の安全性などの問題も絡みます。同研究室は、手間暇かかるものの研究室の総力を挙げてこの交配育種法による選抜を毎年毎年根気強く続けてきました。

その結果、平成10年までに交配から生まれた約1000種類の子孫種を確保、そしてその中から品質が良好なものを選別し、ようやく平成14年に最終候補種として3種類まで絞り込むことができました。最終候補種を選別した後に県の農業試験場に対して系統養成や稲としての生産力試験などを要請、これを機に学官の協調的な取り組みが始まり県オリジナルの酒米の開発は佳境を迎えました。それから3年後の平成17年、農業試験場での試験栽培の結果、「オオセト」と「山田錦」の交配種子孫である「KU-16」（KUは香川大学の意味）がとりわけ粒も大きく収量も多い、また育てやすく、タンパク質が少ないなど特徴が他の候補種より際だって良かったことから香川ブランドの初の酒米として選定されました。「KU-16」は、のちに県知事により「さぬきよいまい」と命名され、「さぬきよいまい」で造られたお酒はキレがありバランスが良くておいしいとの評判を博しています。



農学部内の研究栽培風景



楠谷研究室メンバー



農学部附属農場での試験栽培

【利用が見込まれる分野】 農業（穀作）、食料品製造、飼料製造、日本酒製造

## 研究者プロフィール

楠谷 彰人 / クスタニ アキヒト



メールアドレス	kusu@ag.kagawa-u.ac.jp
所属学部・学科	農学部・応用生物科学科
所属専攻	作物生産生態学
職位	教授
学位	博士（農学）
研究キーワード	作物生態、イネの栽培、中国産水稻、コムギの栽培

問い合わせ番号：AG-09-002

本研究に関するお問い合わせは、香川大学社会連携・知的財産センターまで

直通電話番号：087-864-2522

メールアドレス：ccip@eng.kagawa-u.ac.jp

## 栽培技術の普及や品種改良の功績で中国から表彰

楠谷研究室の専門は、作物生産生態学。なかでも、「さぬきよいまい」の開発に代表されるように、水稻の品種改良や栽培法などの研究では30年近くの実績があります。今後は、米の味をさらに高めることが一番大きな研究テーマ。また、最近は、飼料米やバイオエネルギーに使える米についても研究しています。減反政策により耕作放棄地となった土地でバイオ米を作ることは、里山の荒廃の防止につながる、また、稲をつくることで二酸化炭素減少にも役立つと取り組んでいます。

このほか、中国における水稻の品種改良にも携わっています。天津農学院と香川大学の間で学術協力協定が結ばれており、その一環として10年ほど前から中国産米の食味に関する共同研究を行っています。米の味を決める要因の一つとして、タンパク質やアミロースの含有量があります。これらが少ないほど米がおいしいとされています。中国の米は、タンパク質あるいはアミロースのどちらかが少ないものはあるものの、両方共含有量が少ない米はほとんどありません。このため、中国側と共同で中国の米の特性を調べ、収量が多く食味もよい新品種の育成や栽培技術に関する試験を行っています。

平成20年10月には、それらの功績が認められ、日本の水稻栽培技術の中国国内での普及や品種改良に寄与したとして中国政府より「中国国家友誼賞」が授与されました。

The screenshot shows the website of Tianjin Agricultural University. The main headline is "我院日本籍专家获国家友谊奖" (Our Japanese expert receives the National Friendship Award). The article text states that Professor Akihito Kusutani was awarded the award for his contributions to rice research. Below the text are two photographs: one showing Professor Kusutani in a rice field with other researchers, and another showing him at a rice taste test event with a banner that reads "中日水稻品质·食味研讨会 米饭品尝会" (Sino-Japanese Rice Quality & Taste Symposium, Rice Taste Test Meeting). The article includes a date of 2008-9-12 and a source of the news department.

天津農学院での活動の様子